



令和4年度北海道開発局事業概要 「農業農村整備事業」

国土交通省北海道開発局農業水産部農業計画課

事業実施の基本的な考え方

北海道は、我が国の耕地面積の約4分の1を占めるとともに、主業農家を中心とした安定的な農業構造を確立し、国内最大の食料供給基地となっています。また、海外への輸出にも積極的に取り組まれています。

道内研究機関によれば、北海道の農家戸数は今後も減少して推移すると予測されています。このため、優良農地を保全・活用し、農業生産の維持・拡大を図っていけるよう、離農跡地を円滑に担い手に集約し、省力的かつ生産性の高い農業を実現するとともに、農業の高付加価値化による収益性の高い農業を展開していく必要があります。

北海道農業を支える基幹的農業水利施設は、今後、耐用年数を超過する施設が増加する見込みとなっています。また、凍害や雪庇など積雪寒冷地特有の気象環境の影響により、耐用年数到達前の水利施設に経年劣化の進行が見られるところです。このため、施設の計画的な保全・更新により、将来にわたり農業水利施設の機能を確保していく必要があります。

北海道では、この30年間で時間雨量30mmを超える短時間強雨の発生回数が約1.7倍に増加しており、降雨強度の増加等に対応した排水能力の確保が必要です。その一方で、少雨による干ばつへの対応も必要となっています。

これらを踏まえ、農業農村整備事業においては、「農業競争力強化」と「国土強靱化」に資する事業を重点的に推進します。

主な取組

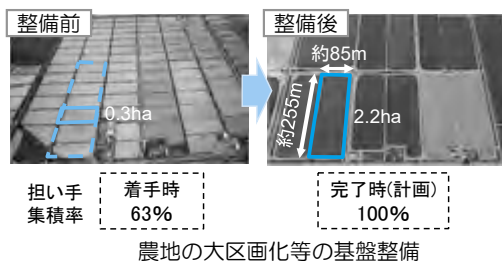
1 農林水産業・食関連産業の振興（農業競争力強化）

(1) 農地の大区画化・汎用化

農地の大区画化・汎用化、地下水位制御システムの導入等の基盤整備とあわせて、担い手への農地集積・集約化を進めます。

整備されたほ場では、自動操舵システム等のスマート農業による効率的な作業が可能となることから、基盤整備を契機としてスマート農業の活用を進めるとともに、コントラクター等の作業受託組織の活用等を図り、農業生産の省力化・低コスト化、高収益作物の生産拡大等による農業の高付加価値化等を推進します。

国営緊急農地再編整備事業「北野地区」の例



「ICT農業」「農業の高付加価値化」等を推進

(2) 畑地かんがい施設の整備

少雨時でも高品質で安定した農業生産を支え、農業の競争力強化が図られるよう、畑地かんがい施設の整備を推進します。

酪農・畜産地帯にあっては、家畜ふん尿とかんがい用水を混合し、家畜ふん尿を効率的に農地還元することを可能とする肥培かんがい施設の整備を推進します。

国営かんがい排水事業「北見二期地区」の例



2 強靱で持続可能な国土の形成（国土強靱化）

(1) 基幹的農業水利施設の保全・更新

基幹的な農業水利施設の計画的な更新・長寿命化・耐震化等を行い、施設のライフサイクルコストの低減と農業生産力の維持・確保を図ります。

国営かんがい排水事業「北海地区」の例

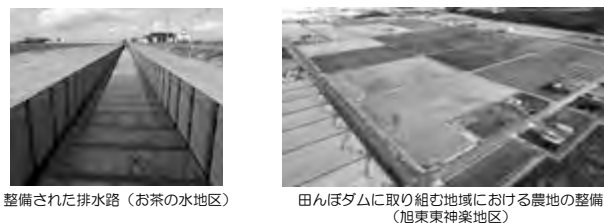


(2) 流域治水対策の推進

道内の各水系では、気候変動による水害リスクの増大に備え、流域全体のあらゆる関係者の協働により「流域治水」に取り組まれており、農業用ダムの事前放流、田んぼダムによる水田貯留機能向上など、農地や農業水利施設の多面的機能を活かした取組も行われています。

農業農村整備事業においては、流域治水の推進に向けて、市街地・集落を含む農村地域の排水対策のための排水施設の整備、事前放流に取り組むダム等の整備、田んぼダムに取り組む地域における農地の整備を推進します。

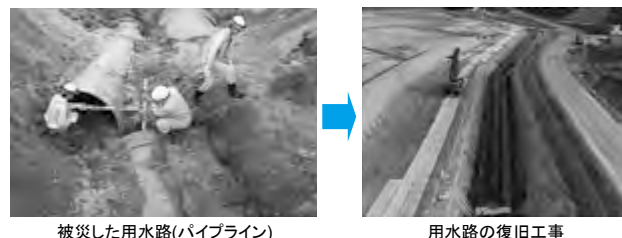
流域治水対策の例



(3) 北海道胆振東部地震からの復旧・復興

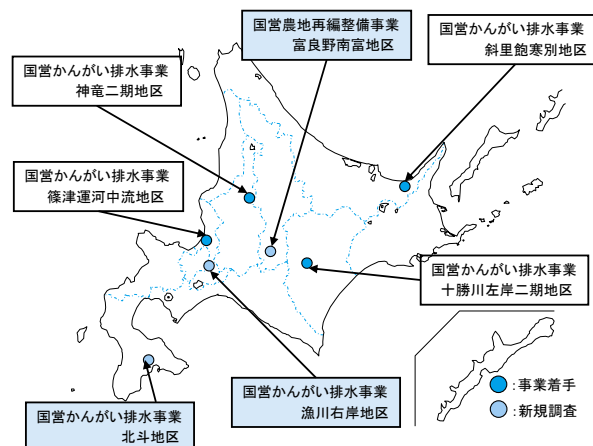
平成30年9月の北海道胆振東部地震により被災した勇払東部地区（厚真町）の厚真ダムや厚幌導水路等について、直轄災害復旧事業による本復旧を進めます。

直轄災害復旧事業「勇払東部地区」



令和4年度新規地区

令和4年度は、国営かんがい排水事業4地区において事業着手しました。また、3地区において調査着手しました。



ここでは、新規事業着手地区のうち2地区の概要を紹介します。

1 国営かんがい排水事業 篠津運河中流地区

(1) 計画内容

- ・関係市町村 江別市、当別町、新篠津村
- ・受益面積 4,962 ha（水田4,904ha、畑58ha）
- ・主要工事 調節水門（改修）1箇所、揚水機場（改修）2箇所、用水路（改修・新設）12.0km、排水機場（改修）1箇所、排水路（改修・新設）5.9km

(2) 概要

本地区の農業用水は、国営篠津中央土地改良事業（S60～H18）等で造成された施設により配水され、水稻を中心に小麦、大豆、小豆、ブロッコリー、レタス、ゆり等を組み合わせた営農が展開されています。

近年、営農状況の変化に伴い水需要が変化するとともに、用排水施設は経年的な劣化等が進行し、施設の維持管理に多大な費用と労力を要しています。また、降雨形態や土地利用の変化に伴い、農地の湛水被害が発生するなど、農業の生産性が低下しています。

このため、水需要の変化等に対応した用水再編と流出量の増加に対応した排水改良を行うとともに、既存の用排水施設を整備することにより、農業用水の安定供給、維持管理の軽減及び農地の湛水被害の解消を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定に寄与します。

(3) 事業実施により期待される効果

- 用水計画の見直し及び排水改良によるブロッコリー等の高収益作物の生産拡大。
- 用水施設の改修・統廃合による用水安定供給と維持管理の軽減。
- 排水施設の改修による湛水被害の解消。



用水施設の機能低下
（管路からの漏水）



農地の湛水被害の発生

2 国営かんがい排水事業 斜里飽寒別地区

(1) 計画内容

- ・関係市町村 斜里町
- ・受益面積 2,387 ha（畑2,387ha）
- ・主要工事 排水機場（改修）1箇所、排水機場（新設）1箇所、排水路（改修・新設）15.2 km

(2) 概要

本地区の排水施設は、国営斜里土地改良事業（S61～H18）等により造成され、小麦、ばれいしょ、てんさいを主体に、にんじん等の野菜や小豆を組み合わせた営農が展開されています。

近年、降雨量の変化に伴う流出量の増加により、農地の湛水被害が発生し、農業の生産性が低下しています。また、経年的な施設の劣化により、施設の維持管理に多大な費用と労力を要しています。

このため、排水施設を新設・改修し、排水再編を行うことにより、農地の湛水被害の解消及び維持管理の軽減を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定に寄与します。

(3) 事業実施により期待される効果

- 排水施設の新設・改修による湛水被害の解消。
- 排水改良によるにんじん等の高収益作物の生産拡大。



農地の湛水被害の発生



にんじんの収穫作業